

2016年3月期 第2四半期 (2015年4月～2015年9月)

決算説明資料



市川工場

 **東洋合成工業株式会社**

2015年11月12日 (木)

1 . 2016年3月期 第2四半期 決算概要

2016年3月期 第2四半期 決算のポイント

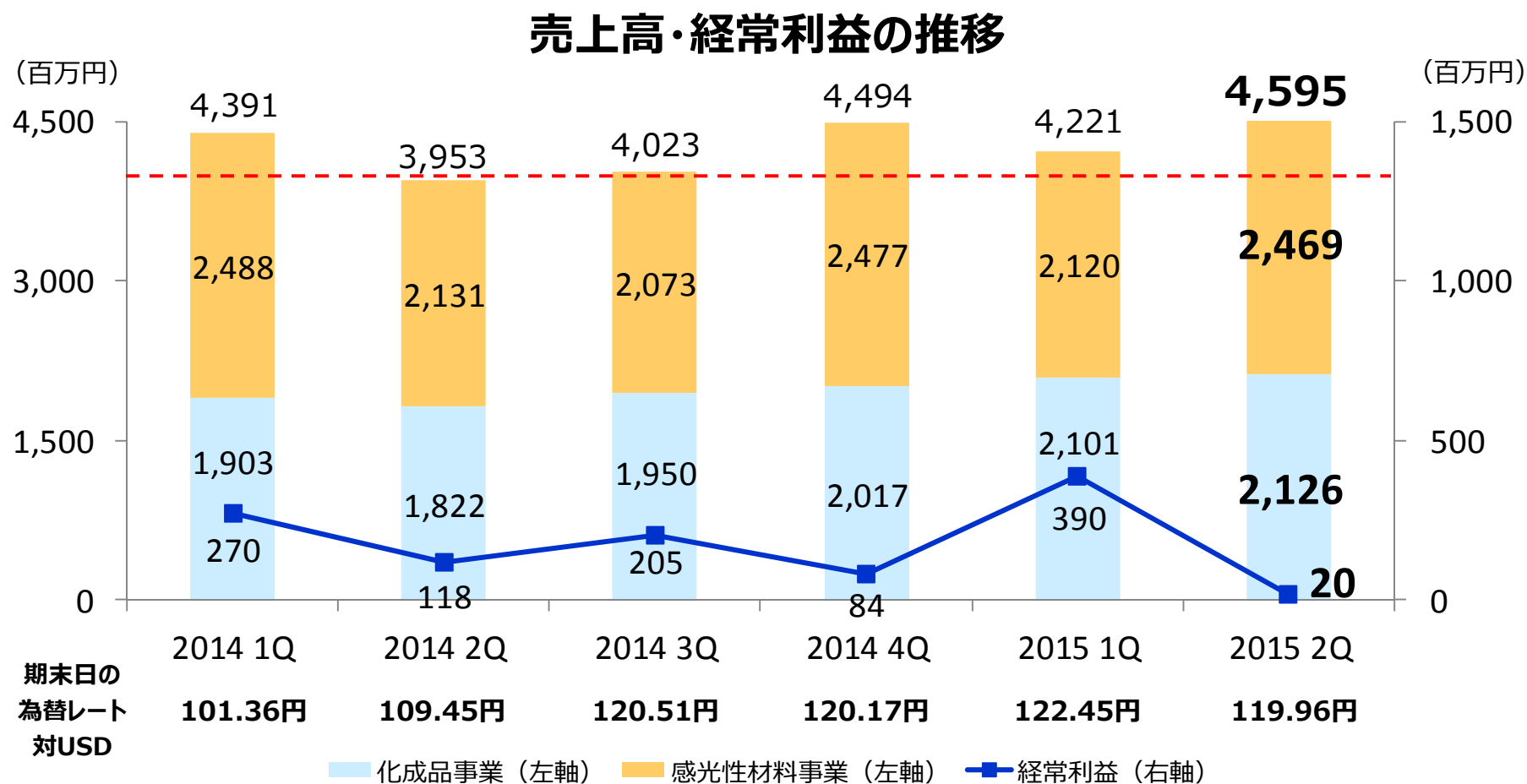
- 売上高は、化成品事業の伸びに支えられ前年同期比472百万円（+5.6%）の増収。
-前年同期比 化成品事業+502百万円（+13%）、感光性材料事業△30百万円（△0.6%）。
- 営業利益は、化成品事業の増収効果、円安効果もあり、203百万円（+65.7%）の増益。
- 経常利益は、前年同期比23百万円（+5.9%）の小幅増益に止まったが、前期の淡路工場補助金（76百万円）を除くと、99百万円（+31.4%）の実質増益。

科目 (百万円)	2015年3月期 第2四半期 (A)	2016年3月期 第2四半期 (B)	増減額 (B) - (A)	増減率 (%)	2016年3月期 通期計画※
売上高	8,345	8,817	+472	+5.6	18,100
営業利益	309	512	+203	+65.7	890
経常利益	388	411	+23	+5.9	700
当期純利益	375	256	△119	△31.7	490
為替レート (売上平均レート)	102.48	121.87	+19.39		

※2015年5月8日発表

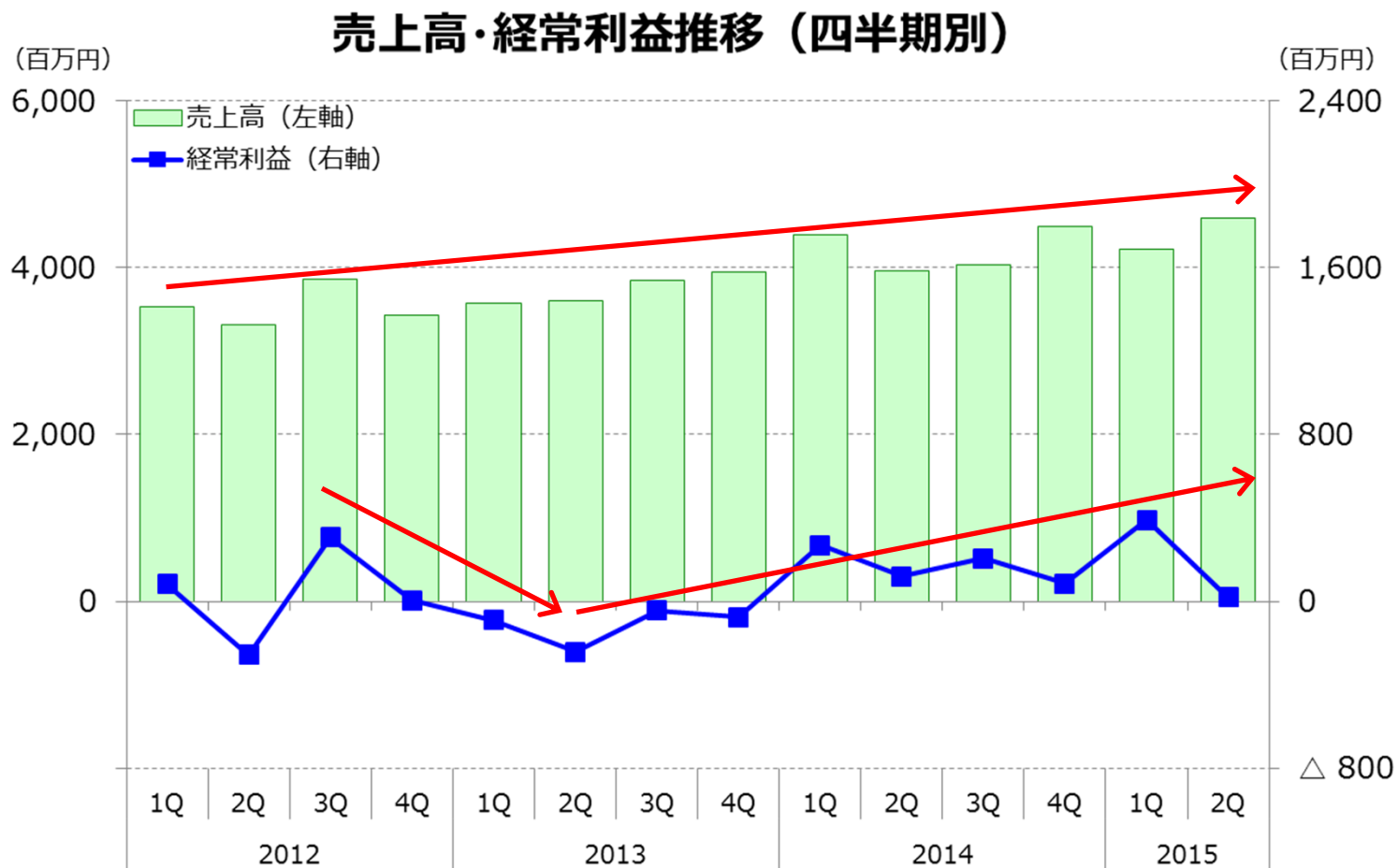
売上高・経常利益推移（四半期別）

- 売上高： 1Q、2Q共に40億円を超え、堅調に推移。2Qは過去最高の45億円に拡大。
- 経常利益： 1Qは良好であったものの、2Qは工場の定期修繕、賞与の増加により低下。



業績の長期トレンド

- 売上高は、四半期40億円台へと順調に拡大。
- 経常利益は、2012~2013の2工場建設（香料工場/淡路工場）により一時悪化したものの、2013年度2Qをボトムに回復。



セグメント別概況 感光性材料事業

感光性材料事業		(百万円)	
	前第2四半期	当第2四半期	
売上高	4,619	4,589	
営業利益	419	474	

(備考)

新規事業負担 △90を含む

● 売上高

前年同期比△30百万円となるも、感光性材料は200百万円の増収。

半導体関連は横ばいの一方、FPD関連が好調に推移。

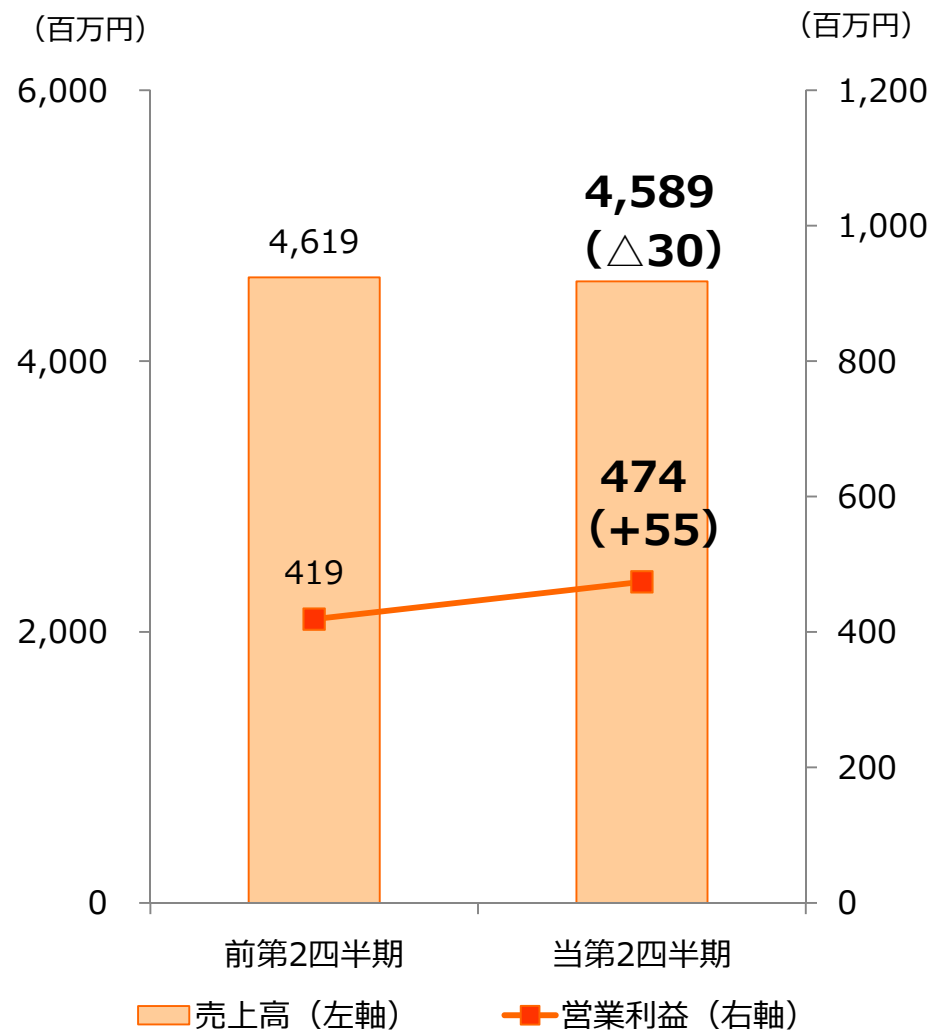
● 営業利益

研究開発費は増加したものの、利益率を改善し、55百万円の増益。

● マーケット

中国経済の減速など、懸念材料はあるものの、現状では、大きな落ち込みは無く当面は堅調に推移すると予想。

売上高及び営業利益



セグメント別概況 化成品事業

化成品事業	(百万円)	
	前第2四半期	当第2四半期
売上高	3,725	4,227
営業利益	△ 109	38

(備考)

新規事業負担 △66を含む

● 香料材料部門

海外販売を中心とした受注増により、27%増収。
増収効果、及び工場稼働率の向上による原価低減等により、利益改善。

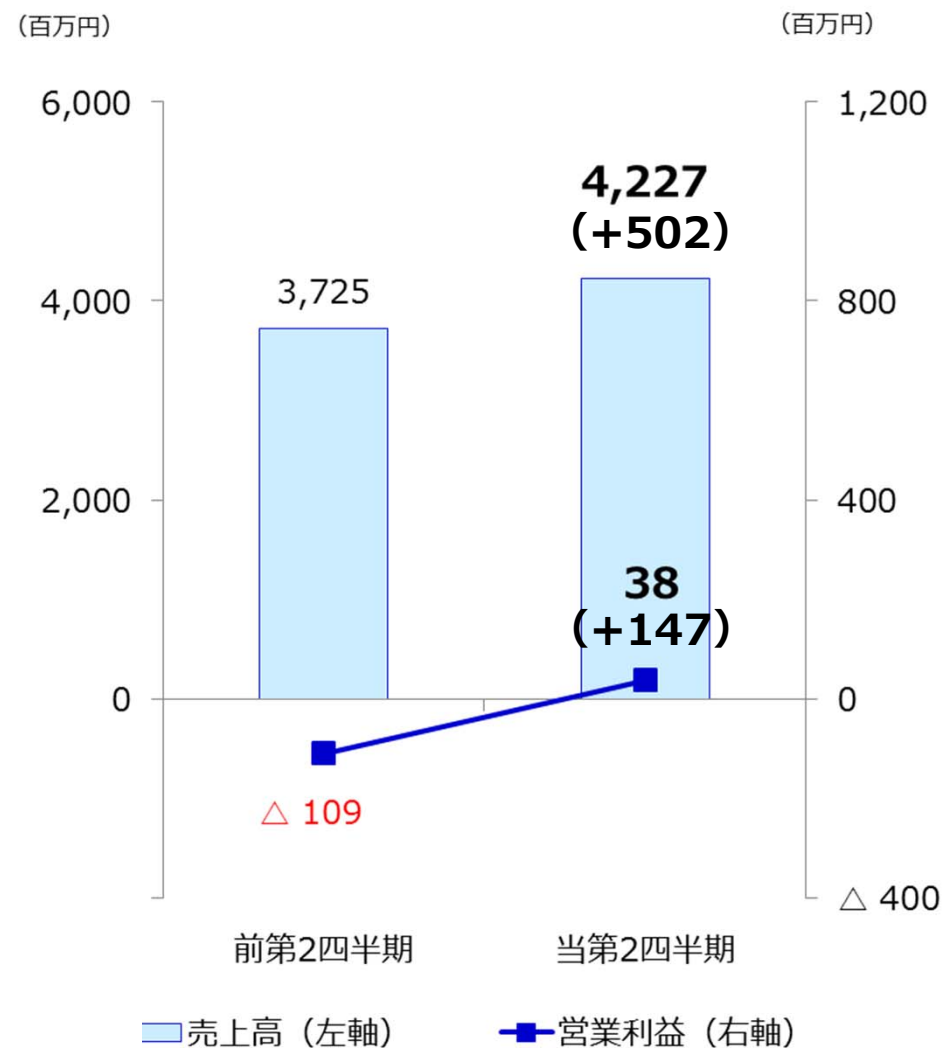
● グリーンケミカル部門

高純度が必要な半導体向け溶剤、FPD向け溶剤、及び医農薬向け溶剤の販売が伸長し、増収・増益。

● ロジスティック部門

法定タンク修繕の完了が下期にずれ込むものの、委託業務の増加等により、増収・増益。

売上高及び営業利益



損益計算書 (要約)

- 売上総利益・・・円安効果、及び香料工場等の稼働率向上により、利益率上昇 (+3.2pt)。
- 販売管理費・・・試験研究費の増加 (+83百万円) と役員報酬減額の解除※ (+19百万円) 等により、161百万円の増加。
※前期は、役員報酬の減額を実施。
- 法人税等・・・前期で欠損金の調整が概ね完了。今期より法人税等を計上。

科目 (百万円)	2015年3月期 第2四半期	2016年3月期 第2四半期	対前期比	
			増減額	増減率
売上高	8,345	8,817	+472	+5.7%
売上原価	6,896	7,003	+107	+1.6%
売上総利益 (売上総利益率)	1,448 (17.4%)	1,813 (20.6%)	+364 (+3.2pt)	+25.1%
販売管理費	1,139	1,300	+161	+12.4%
営業利益	309	512	+203	+65.7%
営業外収益	210	38	△172	△81.9%
営業外費用	130	140	+10	+7.7%
経常利益	388	411	+23	+5.9%
特別利益	—	—	—	—
特別損失	8	1	△7	△87.5%
税引前当期純利益	379	409	+30	+7.9%
法人税等	3	153	+150	—
当期純利益	375	256	△119	△31.7%

貸借対照表 (要約)

- 流動資産……前期末に在庫が減少となったこともあり、棚卸資産が増加 (+507百万円)。
- 固定資産……減価償却の進行による有形固定資産の減少 (Δ 434百万円) の影響で、445百万円の減少。
- 負債……買掛金が増加 (+348百万円) となるも、有利子負債の減少 (Δ 718百万円) により、101百万円の減少。

科目 (百万円)	2015年 3月期末	2016年 3月期 第2四半期	増減	科目 (百万円)	2015年 3月期末	2016年 3月期 第2四半期	増減
流動資産	10,754	11,261	+507	負債	22,122	22,021	Δ 101
現金預金	1,377	1,463	+86	買掛債務	1,900	2,248	+348
売上債権	3,040	2,896	Δ 144	有利子負債	16,950	16,232	Δ 718
棚卸資産	5,949	6,462	+513	その他	3,272	3,541	Δ 269
その他	388	439	+51				
固定資産	17,894	17,449	Δ 445	純資産	6,526	6,689	+163
有形固定資産	16,978	16,544	Δ 434	株主資本	6,468	6,629	+161
無形固定資産	321	307	Δ 14	評価・換算差額等	58	59	+1
投資・その他	593	596	+3				
資産合計	28,648	28,710	+62	負債・純資産合計	28,648	28,710	+62
				自己資本比率 (%)	22.8	23.3	+0.5
				D/Eレシオ (倍)	2.6	2.4	Δ 0.2

キャッシュフロー計算書 (要約)

- 営業キャッシュフロー……………前年同期比 営業キャッシュフローは181百万円 (+18.3%) の増加。
- フリー・キャッシュフロー……………営業キャッシュフローの拡大と投資キャッシュフローの減少により、前年310百万円から当期928百万円へ約3倍に増加。

科目 (百万円)	2015年3月期 第2四半期	2016年3月期 第2四半期	増減
営業活動によるCF… (A)	988	1,169	+181
税金等調整前純利益	379	409	+30
減価償却費	870	823	△47
売掛債権の増減額	△181	143	△324
たな卸資産の増減額	△470	△513	△43
仕入債務の増減額	257	348	+91
その他	131	△42	+173
投資活動によるCF… (B)	△678	△241	+437
フリー・キャッシュフロー (A+B)	310	928	+618
財務活動によるCF	△250	△845	△595
現金及び現金同等物の増減	75	83	+198
現金及び現金同等物の期末残高	1,126	1,057	△69

2. 2016年3月期の業績予想

※当四半期では変更なし

2016年3月期 業績予想 (2015年5月8日開示)

- 上期実績は、売上高は予想比183百万円未達となるも、営業利益は予想比に対し+52百万円、経常利益は11百万円の超過となった。
- 配当は、期初予想通り、中間期5円を実施。期末5円の見通し。
- 今回の開示で、業績予想の修正は行っていない。

科目 (百万円)	2016年3月期 期初上期予想	2016年3月期 上期実績	2016年3月期 上期予想比 増減額	2016年3月期 期初下期予想	2016年3月期 期初通期予想
売上高	9,000	8,817	△183	9,100	18,100
営業利益	460	512	+52	430	890
経常利益	400	411	+11	300	700
当期純利益	270	256	△14	220	490

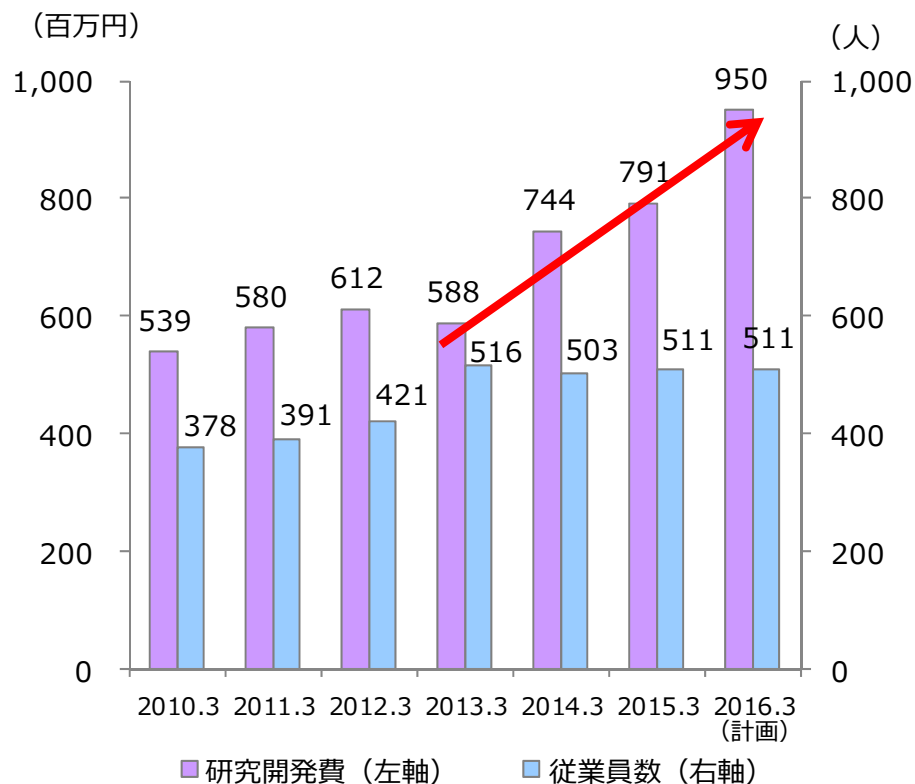
想定為替レート：USD = 118円

3. 今後の展望について

今後の課題と施策

- 中長期的の利益ある事業拡大に向け、特に高付加価値な機能性化学品の研究開発に注力。
- 研究開発費は、感光材を中心に前期比1.6億円増（+20.1%）の9.5億円（売上高比5.2%）。
- 今後さらにマーケティング・研究開発・生産技術の体制強化を図っていく。

研究開発費と従業員数の推移



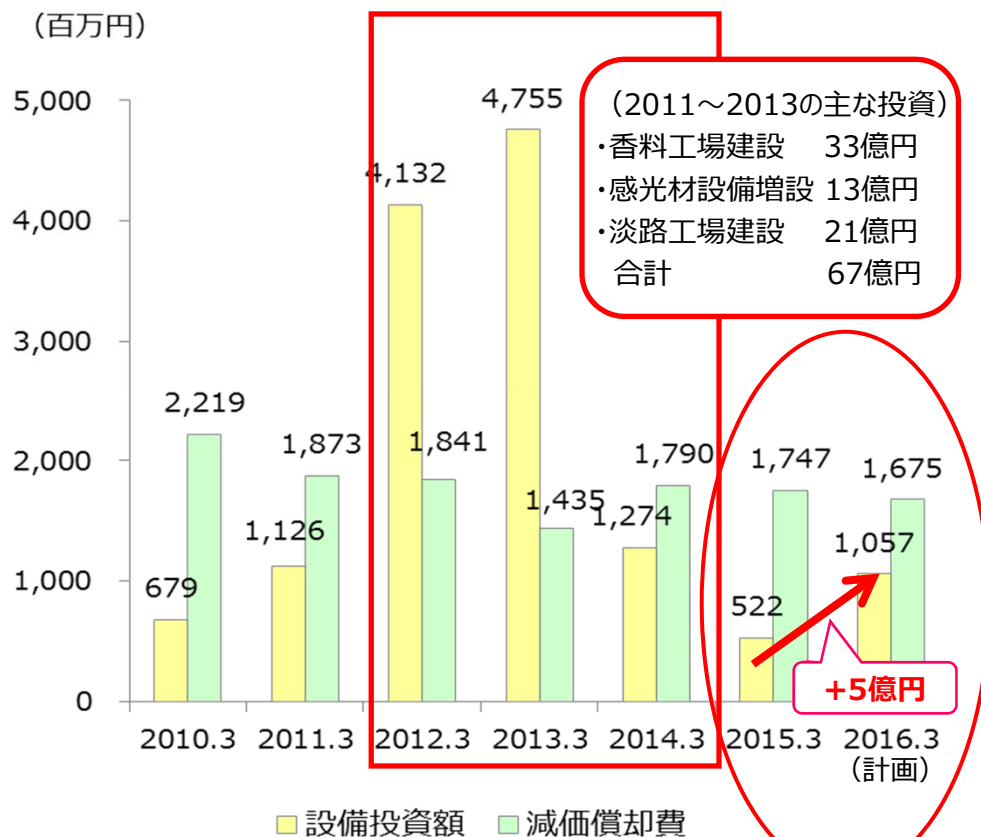
感光材研究所

感光材研究所では、8つの研究グループ、51名の規模で、次世代の機能性化学品を中心とした研究開発に注力。

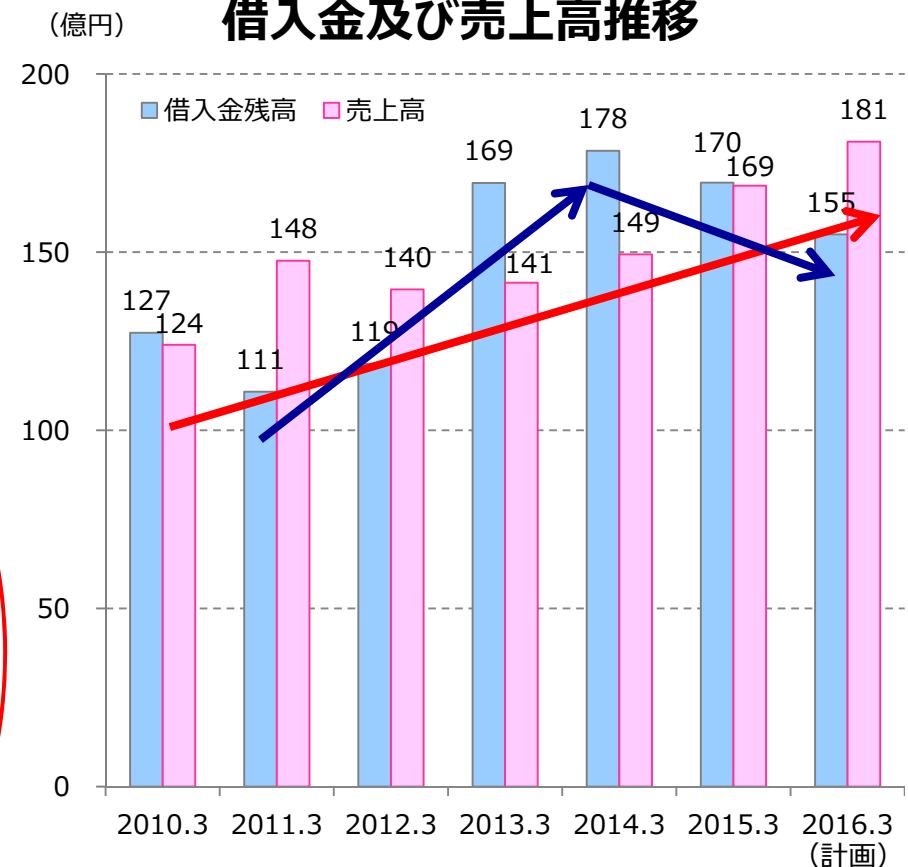
設備投資、減価償却、借入金残高の推移

- 大型投資は2014.3月期で完了。今期の設備投資は前期比+5億円だが、償却費の範囲内で計画。
- 借入金は、売上高未満の水準まで減少。今後、生産性向上、安定供給、開発強化に向け、引き続き財務体質の改善を図っていく。
- 資産効率を上げられるような設備投資案件から優先的に実行。

設備投資と減価償却費の推移



借入金及び売上高推移



感光性材料事業

- 半導体の微細加工技術と多層化が進展し、14nmノードまで量産化が進行
- 現在はArFの技術を改良し、微細化を進めている段階（当社注力領域 DPからMPへ）
- 今後は、全ての世代の感光材の品質向上と多層化に対応し、製品ラインナップの更なる拡充を図る

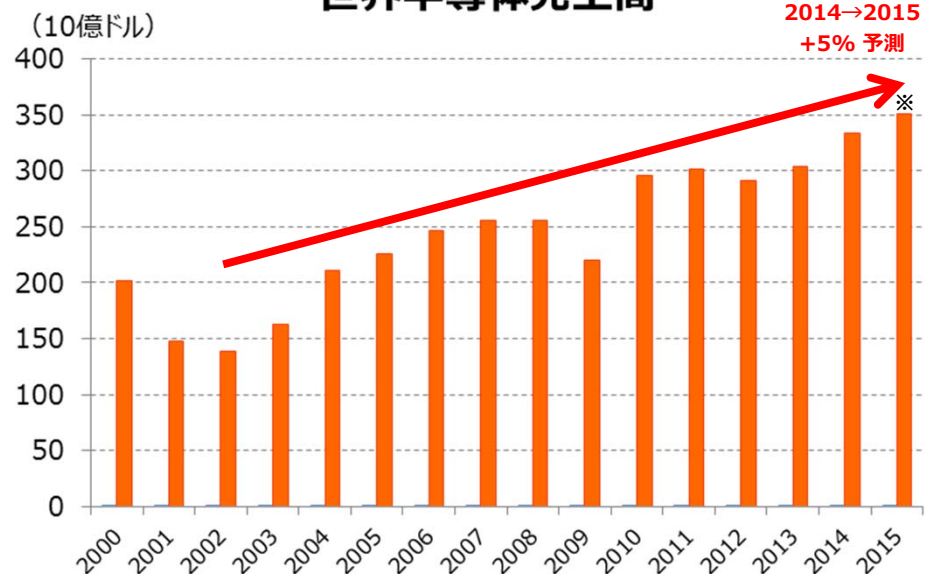
	LCDパネル用		半導体用							
	g + h + i 線	i線	g線	i線	KrF	ArF			EUV	
						液浸	ダブルパターニング	マルチプルパターニング		
線幅	～2,000nm	～1,000nm	～700nm	～200nm	～110nm	～65nm	～45nm	～22nm	～10nm	～5nm
用途	テレビ用、一般用	先端中小型パネル	IGBT、LCDドライバ、LED		DRAM / NAND FLASH メモリ			先端ロジックLSI		次世代ロジックLSI
市場	新興国の需要増	スマートフォン・タブレットによる拡大	緩やかに縮小	拡大	やや拡大	横ばい	量産化 急拡大			プロトタイプ [®] 露光機 販売中 材料開発中

← 当社製品・研究開発のアプローチ範囲 →

感光性材料事業

- 先端半導体レジスト需要は、ArF世代の延長に伴い拡大。先端品の開発需要も旺盛
- LCD向けレジスト需要は、台湾・韓国・中国におけるFPD生産拡大により、成長が続く
- FPD向け感光材は、画面の微細化に伴い高純度感光材のニーズが顕著化

世界半導体売上高

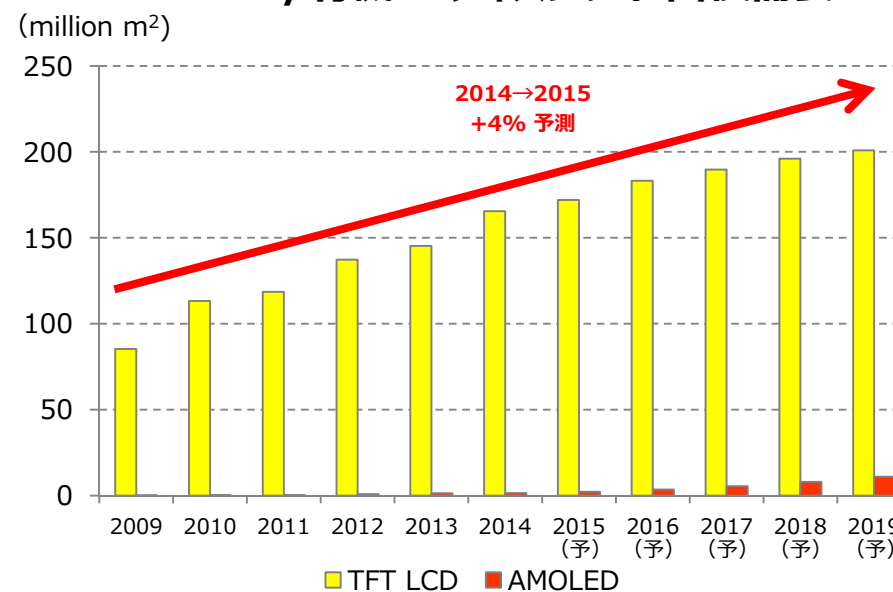


出展：CIA
※2015は予測

世界半導体売上高は、2009年にリーマンショックの影響があったものの、拡大基調は続いている。

先端品 : スマートフォン好調
g、i線 : 車載半導体、LED、パワーデバイス

TFT LCD/有機ELディスプレイ 面積需要



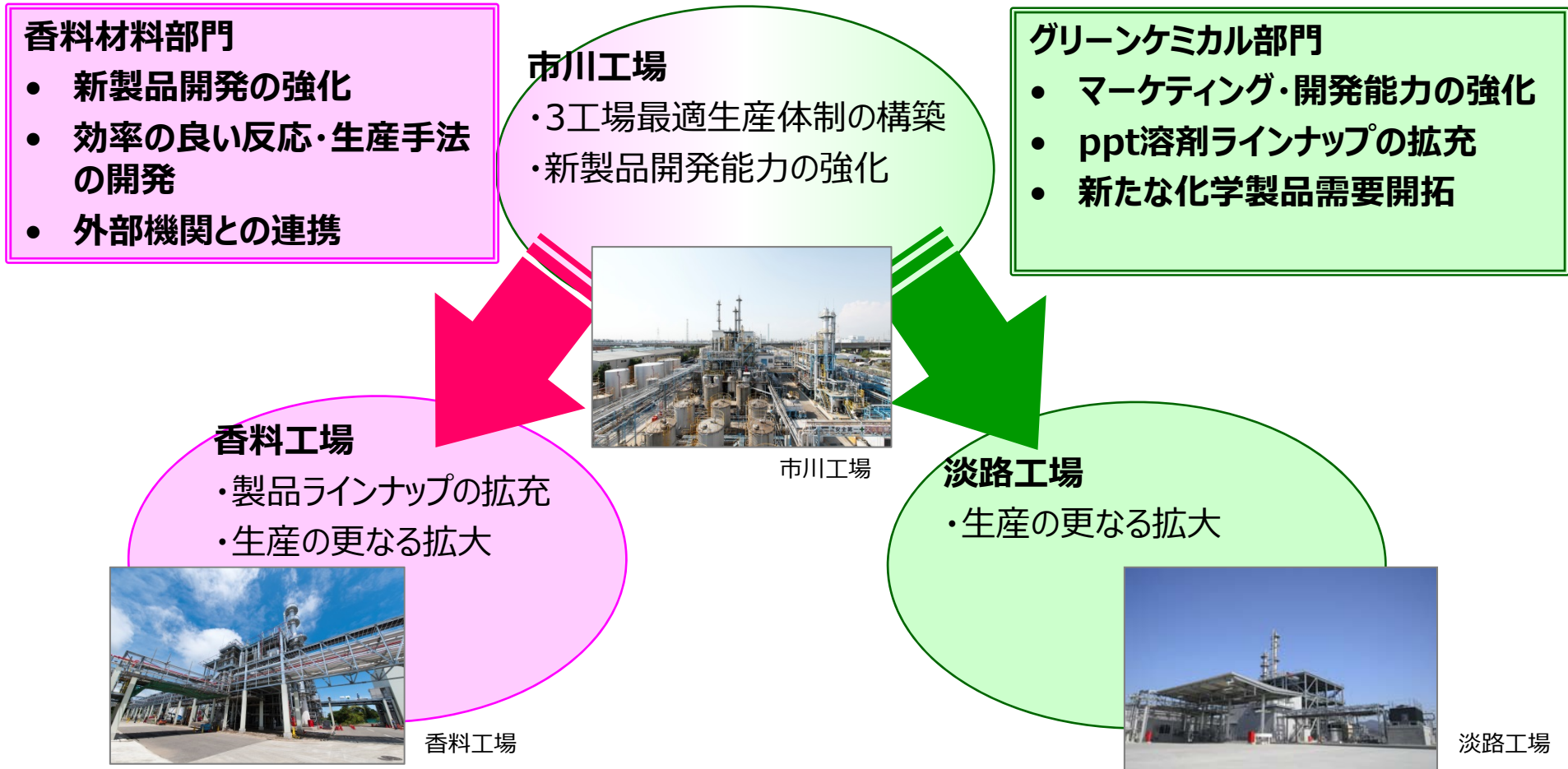
出展：ディスプレイサーチ

2015のディスプレイ面積需要は、前年比+4%成長の見込み

スマートフォン、4Kテレビ、車載LCD、LCD広告等で牽引。
引き続き需要は緩やかに拡大見込み。

化成品事業（香料材料部門・グリーンケミカル部門） ※期初資料再掲

- 香料材料部門、グリーンケミカル部門の3工場体制の構築
- 製品開発能力を一層強化し品ラインナップの更なる拡充を図る



化成品事業（ロジスティック部門）

- サービスレベルと顧客満足のさらなる向上により、需要確保
- 外環道開通（平成29年予定）による関東一円へのアクセスが向上、一段の利便性UPをお客様へ訴求
- お客様、運送会社を含めた安全啓蒙活動などを積極的に推進し、当社油槽所の特徴を共有

高い参入障壁と好立地条件

- 東京湾岸での新規参入は、消防法規制による高いハードルがあり、困難
- 東京湾岸に立地、高速出入口にも近接しており好立地と抜群の交通アクセス
- 外環道の開通により利便性がさらに向上

サービスの差別化

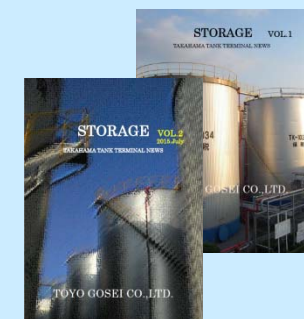
- 多様な受入形態・保管施設を有し、充実した受払サービスを提供
- ファインケミカル事業で培ったノウハウを活かし、品質管理に強み

安全啓蒙活動などをお客様と共有



お客様・運送会社の方々に対し、事故の模擬実演を行う安全講習会のほか、顧客社員への研修を実施するなど、当社の特徴、利便性を効果的に訴求。

外環道開通による当社油槽所の利便性訴求



お客様・運送会社に対し、外環道開通により関東一円へ輸送回数を増やせ、当社油槽所の利便性が一段と向上することを広く案内。

独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。